

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2025.
4月号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー(株)です。

すっかり葉桜となりましたが、お花見は楽しめましたか？

今年は3月の中旬にもかかわらず積雪があったり、4月は例年以上に激しい寒暖差となったりしました。

春は、新しい季節、鮮やかな花々の色と心躍る季節である一方、体調を崩しやすい季節の変わり目でもあります。

皆様、どうぞご自愛くださいませ。

さて、「ふうしゃだより4月号」では、初代北栄町長、松本昭夫氏の最後のインタビューをお届けします。



注目コンテンツ

・松本昭夫氏インタビュー

「地域の自然資源を活用する風力発電は、日本の電力自給率を向上させ、低炭素社会の発展にも寄与できる事業」

・国内での風力発電の導入量

・経産省・エネ庁「地域共生型再生可能エネルギー事業顕彰」に2つの発電所が採択されました



弊社が計画しております「(仮称)鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸いです。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。



地域の自然資源を活用する風力発電は、日本の電力自給率を向上させ、低炭素社会の発展にも寄与できる事業



9基の風車を有する「北条砂丘風力発電所」の建設にご尽力された
初代北栄町長、松本昭夫氏に風力発電所の建設への想いを2回に亘り、伺ってきました。
最後となる3回目のインタビューをお届けします。



松本 昭夫(まつもと・あきお)

2001年に旧北条町長に初当選。
2005年、旧北条町と旧大栄町の合併で誕生した北栄町の初代町長へ
就任。北栄町長として通算4期16年務められました。
合併後の町政の伸展、住民福祉等の功績により旭日小綬章(功労概要:
地方自治功労)を受章されました。

(仮称)鳥取風力発電事業は計画段階で一部の地域住民の皆様から 反対のご意見を頂いている事をご存知ですか？

聞き及んでいます。

電気を使っている者が、計画段階で反対するのはおかしいと思います。反対するなら併せて電気は使用しないと言わないといけないと思います。

電気を使用するのに自分の地域では発電所の建設を反対し、他の地域で発電した電気を使用するだけでは、現在発電所の立地負担をしている地域の方々に対して、もの凄く失礼な事と思います。

事業者が行う調査やその結果に対する事業者や専門家の意見も聞きし、意見を言うべきと考えます。またその事が、発電所の立地負担をしている方々へ寄り添う事になると考えます。

最後にメッセージを頂戴できますか？

風力発電は良いですよ。

災害があっても離隔が取られているので危害があるわけでもなく、解体・撤去についても明確に制度化されているので。

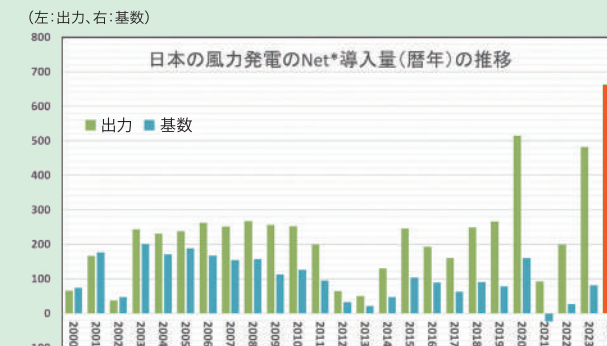
「風」と言う資源がある地域には、後世に残す発電種別としては最適だと思います。

子供達の教育にも役立ちますし。

事業者には、苦労が多いとは思いますが、理解し、賛成してくれる人にはわかる事なので、一抹の不安も抱かれず事業を進めて頂きたいと考えます。

【国内での風力発電はどれくらい導入されているの？】

- ・2024年12月末時点で**新たに170基(発電量703.3MW)**が稼働開始となりました。※2024年12月末で、廃止(撤去)された風車が50基あるため、純増120基(662.0MW)となります。
- ・**2024年12月末、国内で稼働している風力発電機は2,720基(5,840.4MW)**となりました。
- ・なお、世界の風力発電量に占める**日本の発電量の割合は、0.5%しかありません。**



【大型化が進む風力発電機】

- ・2024年に新規に建設された風力発電機(単基)の平均出力は3,700kW(3.7MW)となりました。10年前(2014年)の平均出力2,000kW(2.0MW)と比較すると約2倍となっています。
- ・大型化は、工業製品としての風力発電機の技術・素材革新により可能となりました。同時に発電効率も向上しました。



<出典>JWPA(日本風力発電協会)

経産省・エネ庁「地域共生型再生可能エネルギー事業顕彰」に 中里風力発電所と笠間太陽光発電所が採択

地域と共生した再エネ事業の普及・促進を図るため、経産省が優良な事業に対し顕彰をしております。

弊社の事業が、それぞれの合同会社を申請者とし、令和6年度公募で顕彰されました。

中里風力発電所(中里風力合同会社) (連携市区町村:青森県中泊町 | 47MW)

詳しくみる



2022年4月 商業運転開始

計画段階から地域住民との継続的な意見交換を実施し、地域と共生する再エネ発電事業を推進しています。

また、売電収入の一部は「宮越家離れ・庭園保存・維持管理事業」、「町総合福祉健康センター建設事業」、「スマート農業」及び「漁業養殖事業」などの地域再生に資する事業へ充てられています。

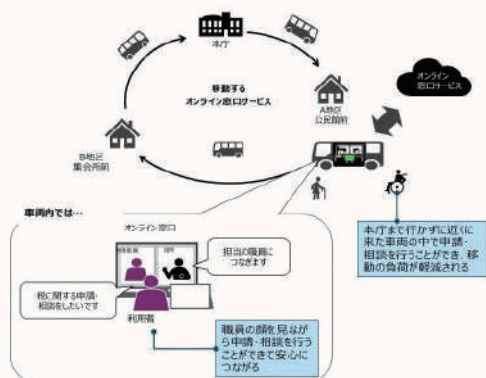
令和6年度顕彰



事業番号: R6-5

笠間太陽光発電所(合同会社NRE-32インベストメント) (連携市区町村:茨城県笠間市 | 53MW)

詳しくみる



2022年9月 商業運転開始

同市における再生可能エネルギーの普及による脱炭素化の支援とともに、未利用地の活用、市街地以外の地域復興、デジタル技術の活用などによる持続する地域コミュニティ形成などの市全体の課題解決に資する行政サービスの向上や地域の発展を支える取り組みを推進しています。

令和6年度顕彰



事業番号: R6-2